

ベントグリーンを夏越しさせる9つのSTEP



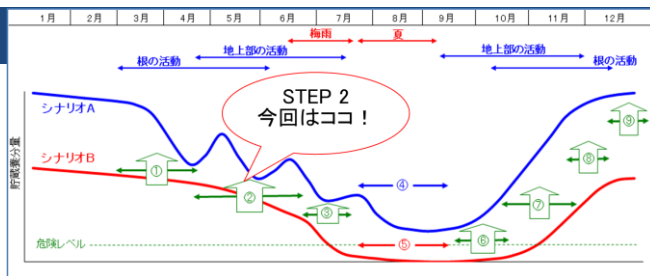
STEP 2 【春】

「梅雨前に芝と土壌の若返り」: 更新作業と施肥

- 春本番、地上部・地下部ともに生育適温で、根も葉も生長が旺盛、光合成能力も高い時期です

気象・芝・土壌の状態

- ・ 根にも葉にも、生育適温
- ・ 光合成による豊富な炭水化物で、葉や根も旺盛に生長
- ・ 回復力が高いので、強い更新作業が可能
- ・ 刈草が過剰に出たり、葉が暴れたりしやすい
- ・ 冬の間に土壌に有機物が貯まっていることが多い

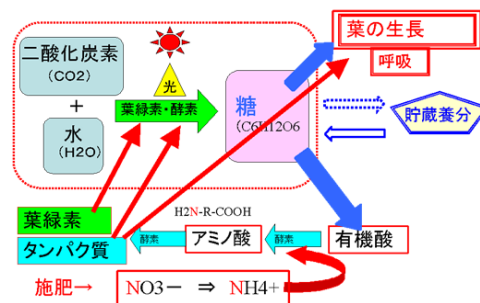


管理目標＝活性の高い芝草と、通気・透水が良く、窒素暴発しにくい土壌を作る

梅雨の前に、芝草と土壌を若返らせるべきこの時期、しかし大きな課題があります。

- ・ 葉身の窒素が不足すれば光合成が下がってしまうが、窒素が過剰になれば葉の過剰生長が起き、刈込による炭水化物の激しい収奪や、パッティングクオリティの低下を招くので、過不足の無い葉身窒素レベルのコントロールが必要
- ・ 土壌改善と芝草の若返りには更新作業が有効だが、作業後の回復には大量の炭水化物が必要になる
- ・ 更新作業が不足したまま梅雨に入ってしまうと、土壌酸欠や窒素暴発のリスクが増す

『窒素の二面性』 窒素はタンパク質や葉緑素の材料として、光合成による炭水化物生産には必須ですが、同時に葉の生長を促進する「炭水化物消費のシグナル」でもあります。葉の生長が旺盛な時期、炭水化物収支を最大に保つには、特に厳密な葉身窒素のコントロールが必要です。



管理作業のポイント

適切な施肥で葉身中の無機養分レベルを過不足無くコントロールして、炭水化物収支を最適化し、炭水化物を最大限に確保した上で、必要な更新作業を行なうことが、この時期のポイントになります。

【ポイント1】 葉の窒素レベルを過不足無くコントロールする

- ・ ベースラインを粒状肥料で作り、液肥で微調整する
- ・ 制御不能な土壌窒素放出につながる因子(土壌有機物や、アンモニアが吸着可能な土壌粒子の空きCECサイト)を減らす

【ポイント2】 バランスのとれた施肥で、光合成と新たな組織形成を最大化

- ・ Mgなどの光合成関連要素や、組織形成に必要なP・Caも充分に与える

【ポイント3】 更新作業の最大のチャンス

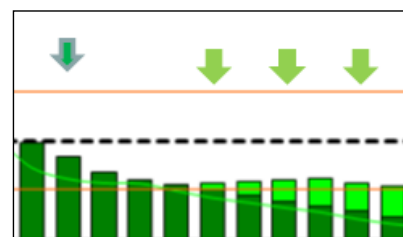
- ・ 更新作業で、透水性・通気性の高い土壌と、活性の高い芝草を作る
- ・ 貯蔵養分は作業後に一時下がるが、芝の活性が高ければ回復する
- ・ ここで土と芝を作っておかないと、梅雨～夏に土壌酸欠や窒素暴発で急激に貯蔵養分減少・状態悪化が起きるリスクが高まる

【ポイント4】 更新作業前の施肥で回復を早める

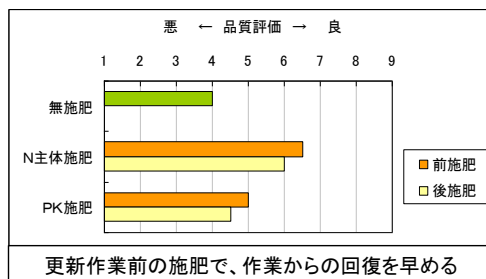
- ・ 更新作業後の光合成の落ち込みを防ぐため、作業前の施肥で、葉身中の窒素や光合成関連成分を確保しておく

【葉身分析のポイント】 ※葉身分析と貯蔵養分フルクタンについてはSTEP 0【総説】をご参照

- ・ Nは4.0～5.0%にコントロールし、Mg・微量元素も確保して、光合成や炭水化物収支を最大化する
- ・ 新たな組織の形成に必要なPは0.5%、Caは0.3%以上を確保。
- ・ フルクタンは一時的に目標値(20mg)を割っても、その後反発すればOKとする



窒素コントロールのイメージ: 緩効性粒状肥料(濃い緑色)で窒素のベースを作り、液肥(薄い緑色)で葉身窒素を目標レベルに保つ



更新作業前の施肥で、作業からの回復を早める

この時期のおすすめ資材・機材

【ニュートリDG DGハイP・DGベース】

窒素放出の予測が可能な緩効性粒状肥料で窒素のベース作り

【Theクラシック、K-ビルダー、フェロメック、シェイプアップ】

液肥で葉身中の窒素レベルを微調整、光合成関連要素も補給

【TKOフォスファイト、リキッドカルシウム】

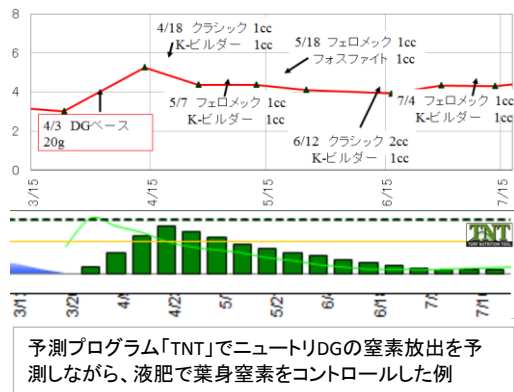
新たな組織の形成に必要なリンやカルシウムを、吸収の良い液肥で

【グレーデンバーチカッター、コアマスター、マレードVコアラー】

土壤に合わせた更新作業で、透水性・通気性を確保、有機物を除去

【ニュートリDG Kal-tec】

塩基飽和度の低い土壤には、Ca・Mg・Kの大量投与で、
土壤に吸着されているアンモニウムを追い出し、窒素暴発を防ぐ

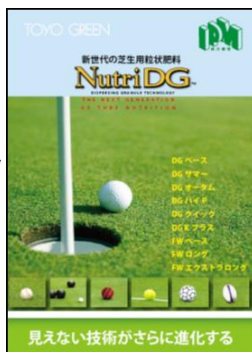


窒素放出の予測が可能な緩効性・分散性粒状肥料

ニュートリDG DG ハイP

窒素のベースラインを作り、
新たな細胞形成に大量に必要な
リンを補給

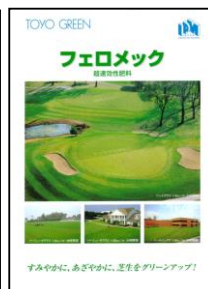
- ・成分: 12-24-8+Mn 0.5%・Mg 0.5%
- ・窒素成分は 50%が緩効性ミューテック
- ・窒素放出を予測するプログラム「TNT」で、高精度の窒素コントロールが可能
- ・細胞分裂や光合成に必要なリンを重点配合



葉身中の窒素レベルの微調整に 信頼の液肥群

The クラシック・Kビルダー・フェロメック

適性窒素レベルを維持して炭水化物収支を最適化、
同時に魅力的な葉色と高いパッティングクオリティを実現



土壤に合わせた最適な更新作業で、土と芝の若返りを！
土壤有機物の除去に

コアマスター 12

マレード Vコアラー

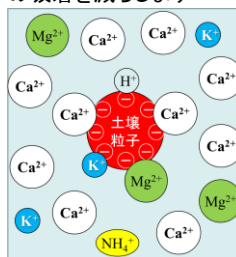
GRADEN バーチカッター



ミネラルの大量投与で、窒素暴発が起きにくい土壤に改造

ニュートリDG DG Kal-tec

CECが高く塩基飽和度が低い土壤には
春～梅雨にCa・Mg・Kを大量投与、
塩基飽和度を上げて、アンモニウム
イオンの吸着を減らします



→ 「STEP 3」に進む

※葉身分析目標値: 過去の分析結果から弊社が独自に設定した、時期毎の暫定目標値です。随時改訂しています。

東洋グリーンはベントグリーンの夏越しを応援します



東洋グリーン株式会社

本社 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-33-8

TEL 03-3249-7731 FAX 03-3249-7781

東日本営業部 TEL 03-3249-7735

大阪支店 TEL 078-903-6776

名古屋支店 TEL 052-505-8880

九州支店 TEL 0942-43-7234

ホームページ <http://www.toyo-green.com/>

お問合せ

info@toyo-green.com